

## 第2回 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会

日 時：平成18年8月3日（木）10時00分～

場 所：松村ビル別館 201会議室

### 次 第

#### 1 開会

#### 2 資源循環局長挨拶

#### 3 議事

(1) 第1回委員会における課題の整理について

(2) 整備計画（技術検討）に向けての考え方

(3) その他

・戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会の公開・傍聴規定の改訂について

#### 4 報告事項

(1) 第1回委員会議事録について

(2) ボーリング調査の内容と進捗状況について

(3) 第1回委員会以降の水質測定結果について

(4) 応急対策

(5) 戸塚区品濃町処分場検証委員会の開催状況について

#### 5 閉会

#### 配付資料

資料1 「第1回戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会」における課題

資料2 整備計画策定（技術検討）に向けての考え方

資料3 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会の会議の公開・傍聴規定（改訂案）

資料4 第1回戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会議事録

資料5 ボーリング調査の内容と進捗

資料6 第1回委員会以降の水質測定結果

資料7 戸塚区品濃町最終処分場検証委員会の概要

戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏 名	所 属 等	専 門 分 野
あいざわ よしはる 相澤 好治	北里大学医学部教授	医学、公衆衛生学
いまいずみ しげよし 今泉 繁良	宇都宮大学大学院教授	土質工学、 環境地盤工学
○さるた かつみ ○猿田 勝美	神奈川大学名誉教授	環境科学
◎なかすぎ おさみ ◎中杉 修身	上智大学大学院教授	環境工学
のま ゆきお 野馬 幸生	(独) 国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 物質管理研究室 室長	廃棄物化学
まつふじ やすし 松藤 康司	福岡大学工学部教授	廃棄物工学
やぎ よしお 八木 美雄	(財) 廃棄物研究財団 常務理事	廃棄物工学、 廃棄物行政
オブザーバー		
はやし りか 林 里香	環境省 関東地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課長	

◎委員長、○副委員長

## 「第1回 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会」における課題

## 1 処理水の放流実績について

- 平成9年4月～平成10年7月：平均放流量は約45 m<sup>3</sup>/日
- 平成10年8月～現在：処理水質悪化による放流停止（処理水の場内返送措置）

参考：別添①「H9.4～H17.12の放流量及び降雨量の累計グラフ」

## 2 埋立処分場の遮水工について

別添②「遮水工施工図面集」 ※ 施工当時の写真を参考に作成

## 3 全体の廃棄物の中の水位コンターについて

- 排水処理施設側の地盤高（TP + 47.28 m）よりも高い位置にある廃棄物法面から浸出液が染み出している箇所があり、全体の浸出液水位が高い状況にあることが考えられる
- 2か所の浸出液揚水井による場内水位調査結果
  - ・ 大雨時は水位が上昇するが、通常の降雨程度ではほとんど変動しない
  - ・ 既存部（浸出液 No.1）の水位はGLより高く、拡大部（浸出液 No.2）の水位はGLより低い

参考：別添③「H15.7～H18.3 週別の降雨量と水位の関係」

「H18.4～H18.6 日別の降雨量と水位の関係」

（別添②「遮水工施工図面集」 ※ 平面図で浸出液揚水井の位置がわかる）

## 4 アスベストの埋立箇所について

別添④「アスベスト埋立に関する資料」

## 5 トンネルからの湧水について

- 検査実施日：平成18年6月9日
- 結果概要：保土ヶ谷区と戸塚区の区界付近が分水嶺となり、地下水汚染は戸塚区側に寄っている

参考：別添⑤「JRトンネル内検査状況」

## 6 埋立廃棄物の種類・量・排出事業所・埋立箇所等について

- 種類・量：別添⑥「H2.4～H12.11 廃棄物種類別の埋立処分実績」
- 埋立箇所：廃棄物（排出事業所別）ごとの埋立箇所の特定は困難。しかし、7の調査結果では、調査地点別で組成に大きな相違は見られていない。
- 分析結果：搬入された管理型産業廃棄物の一部（燃え殻・汚泥・銻さい・ばいじん）についての有害物質溶出試験結果（本市に報告されたもの）は、全て埋立処分基準に適合している。

## 7 ボーリング調査について

別添⑦「H17.8 ボーリング調査概要」

## 8 地下水等のヘキサダイアグラムについて

- 結果概要：

参考：別添⑧「ヘキサダイアグラム一覧」

## 9 水路の上流における水質調査について

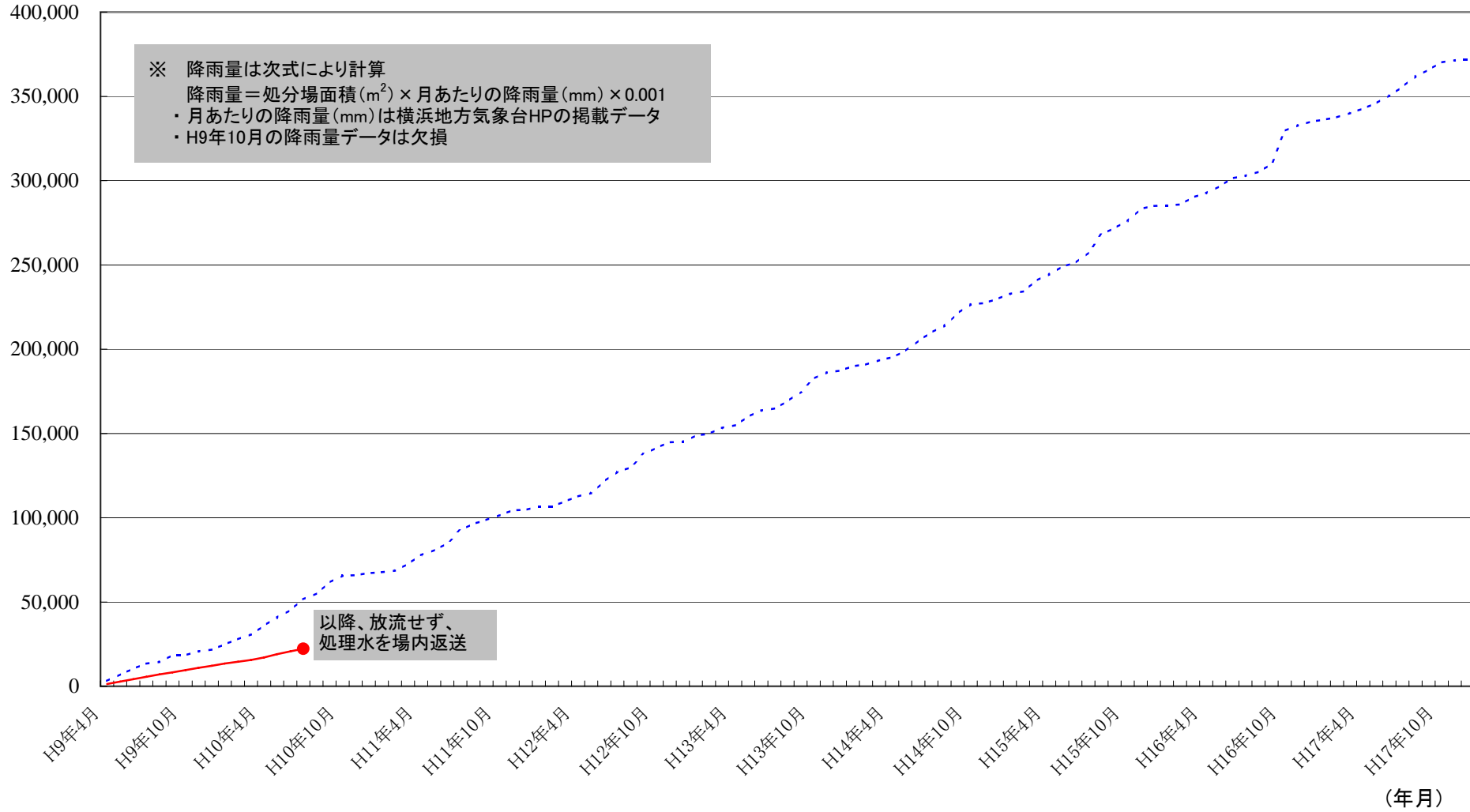
- トンネルの上流については5のとおり
- 遊水池の上流は人孔がない暗渠であり、通気が不十分で進入調査が困難。ただし、処分場内の排水ますの改修工事（平成17年8月）の後に、遊水池流入水の水質に改善傾向が見られたため、水質悪化原因は「排水ますへの浸出液の漏水」であったと考えられる。

参考：別添⑨「処分場内の排水ますの改修工事に関する資料」

### H9. 4～H17. 12の放流量及び降雨量の累計グラフ

(単位: 立米)

— 放流量累計  
 - - - 降雨量累計



# 遮水工施工図面集

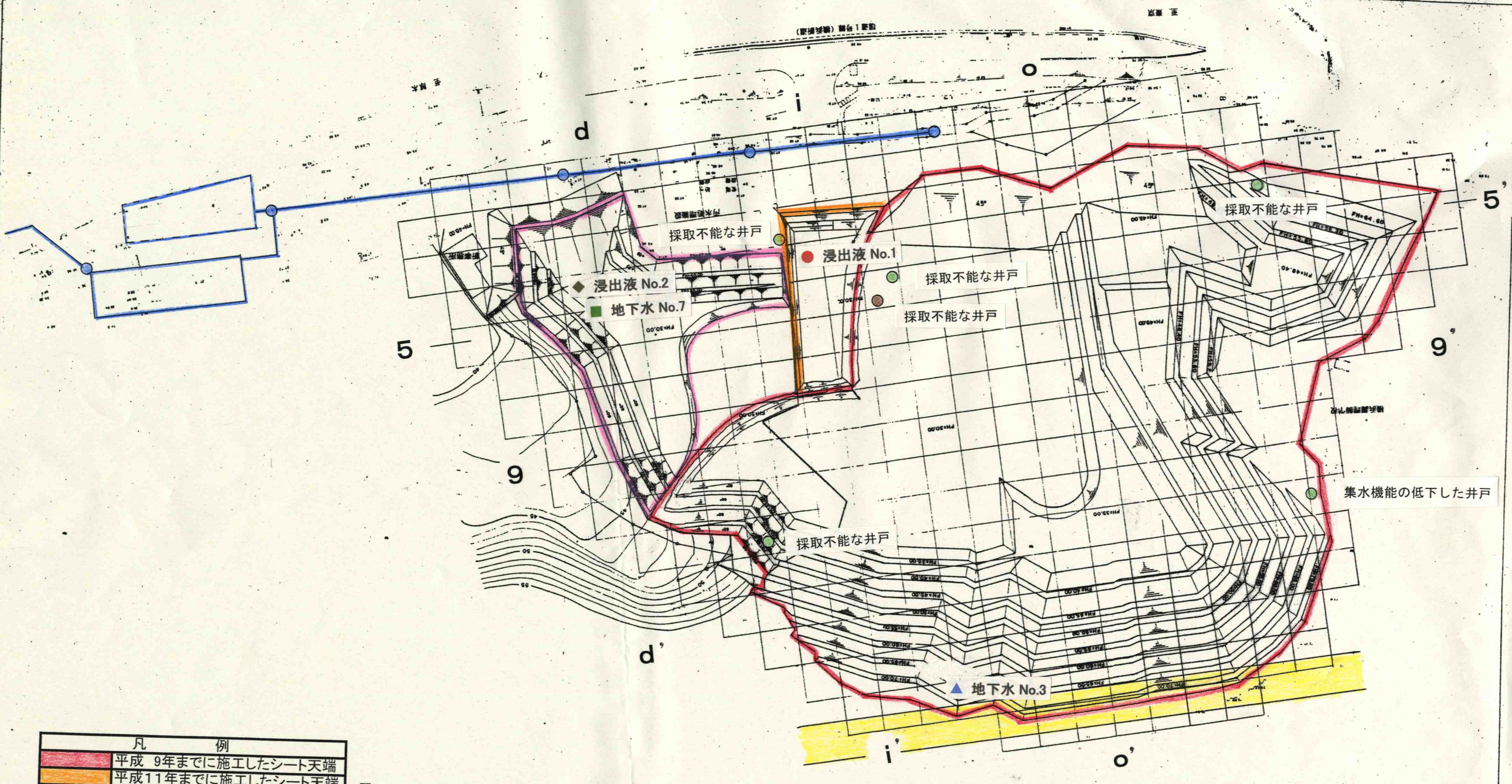
## 図面の作り方

### 1 平面図

平成11年の軽微変更届の掘削図を用いています。  
但し、掘削底面は、その図面にあるような平坦なものではないので、過去の写真を参考にして「実状想定図」を作図しました。  
処分場の底面・側面全てを遮水シートが確実に覆っている写真が無いため、シートを示す線は現実とは異なっている可能性があります。

### 2 断面図

平成12年に工成社が作成した、処分場のメッシュ図と、平成15年に国際航業が行った測量のデータをもとに作成しました。  
処分場の底面の線は、写真をもとに、明らかに形が分かるものについては、作図を行いました。  
また、データとデータを直線で結んだため、実際の形状とは多少異なります。



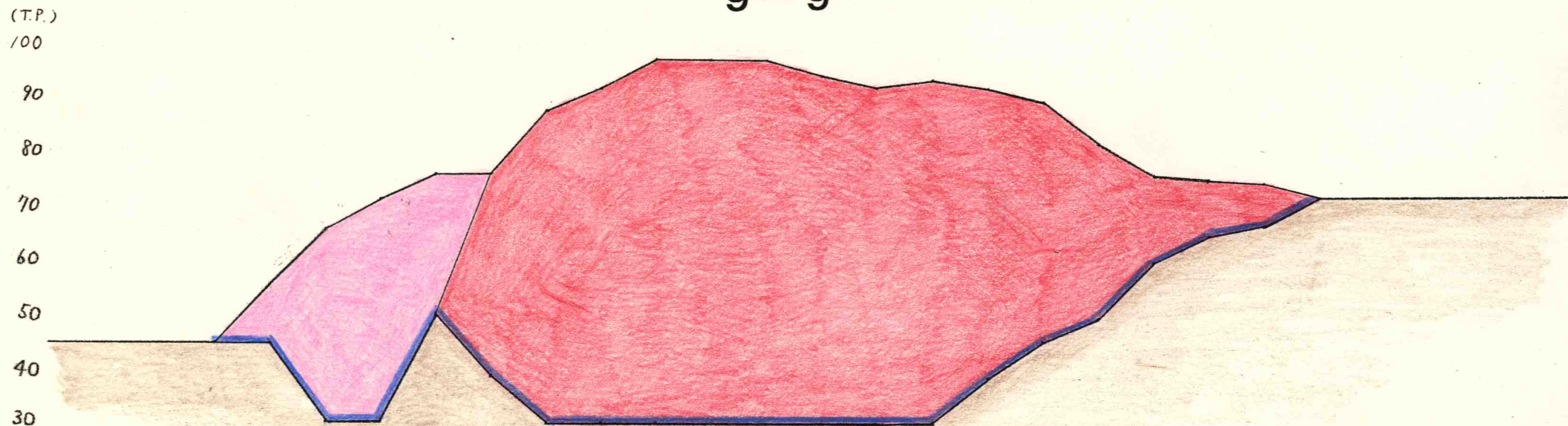
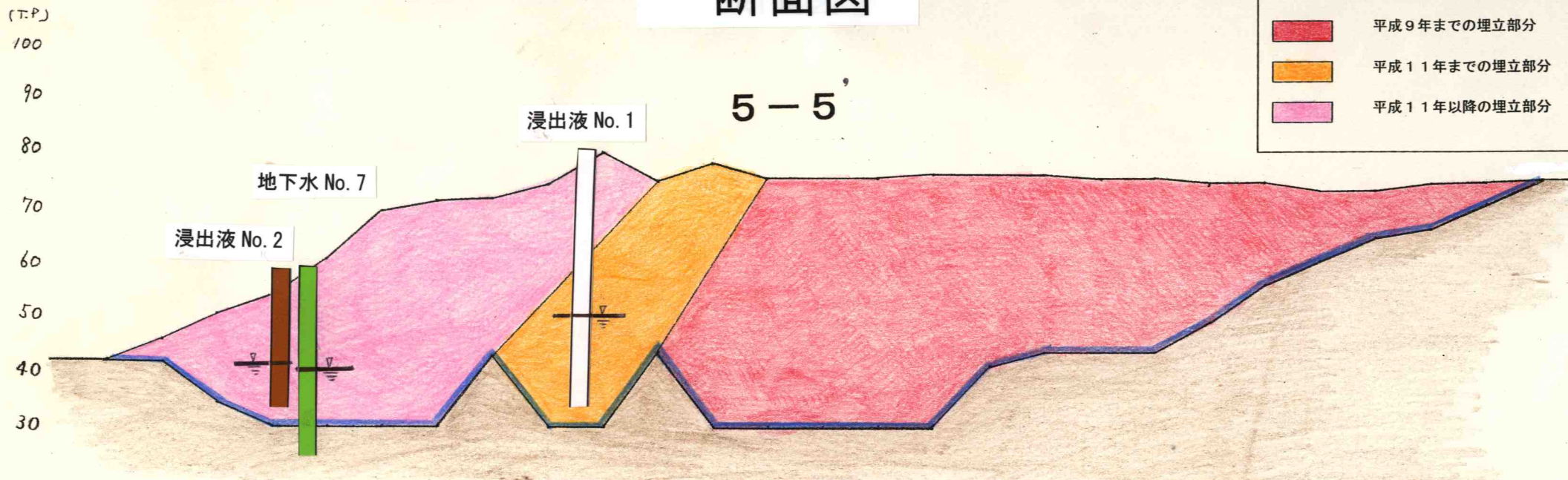
凡	例
<span style="color: red;">—</span>	平成 9年までに施工したシート天端
<span style="color: orange;">—</span>	平成11年までに施工したシート天端
<span style="color: pink;">—</span>	平成11年以降に施工したシート天端
<span style="color: blue;">—</span>	雨水施設
● (green)	観測井戸
● (brown)	浸出液揚水井
■ (yellow)	猪久保トンネル

遮水工施工箇所平面図

# 断面図

## 凡 例

- 平成9年までの埋立部分
- 平成11年までの埋立部分
- 平成11年以降の埋立部分



# 断面図

凡 例

- 平成9年までの埋立部分
- 平成11年までの埋立部分
- 平成11年以降の埋立部分

(T.P.)  
100

90

80

70

60

50

40

30

浸出液 No. 2

地下水 No. 7

d - d'

(T.P.)

100

90

80

70

60

50

40

30

浸出液 No. 1

地下水 No. 3

i - i'

(T.P.)

100

90

80

70

60

50

40

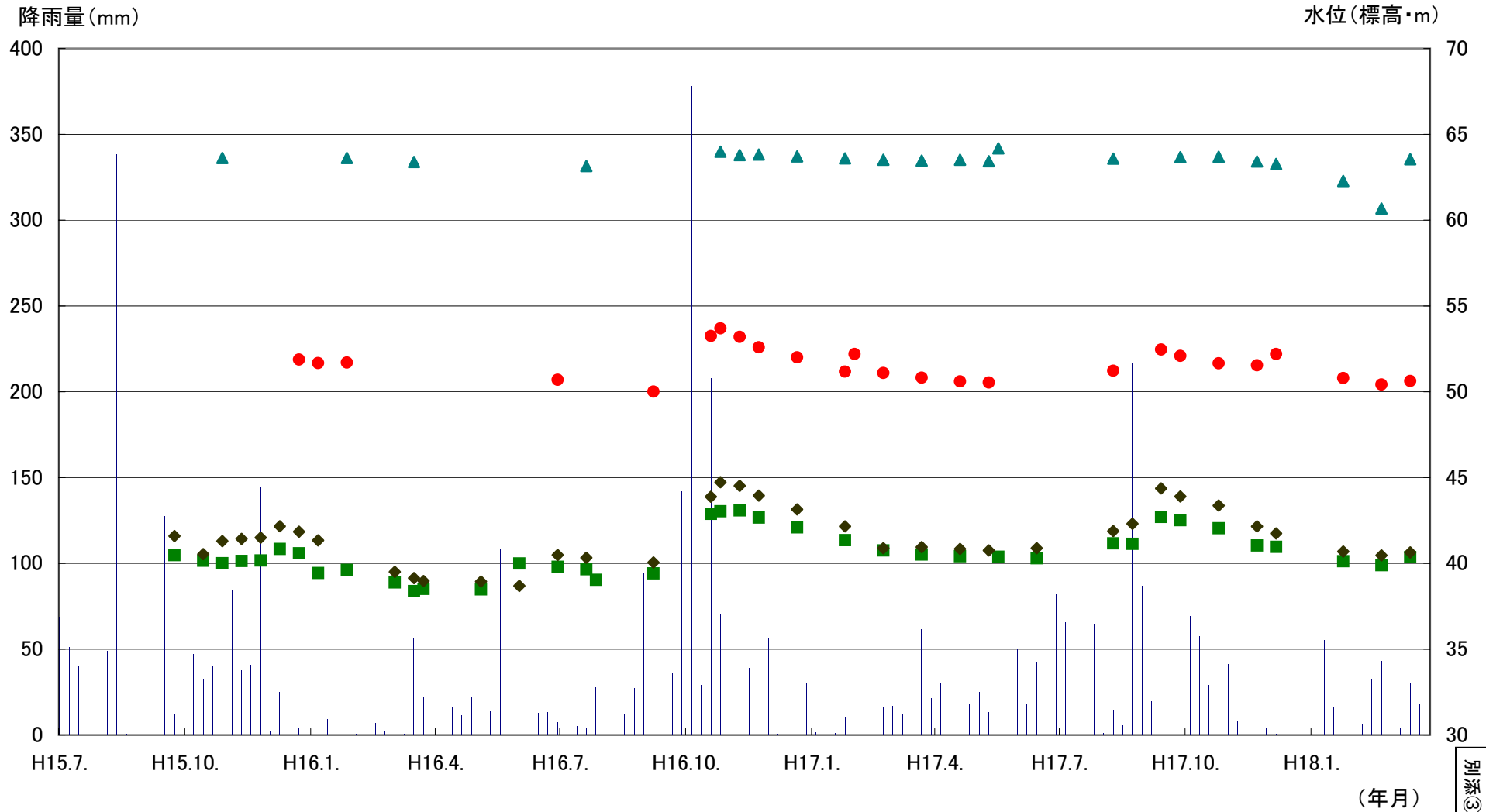
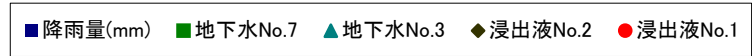
30

o - o'

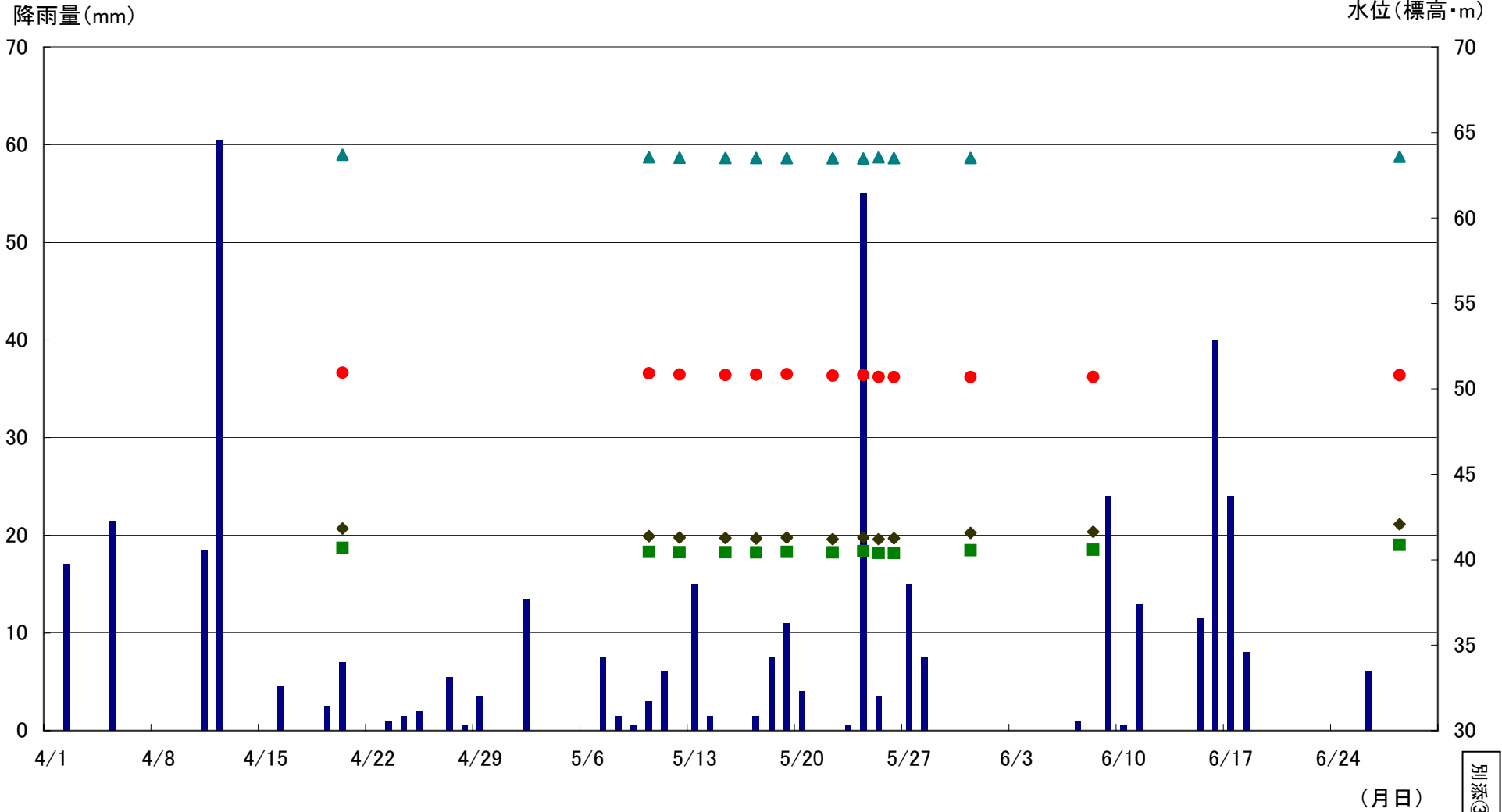




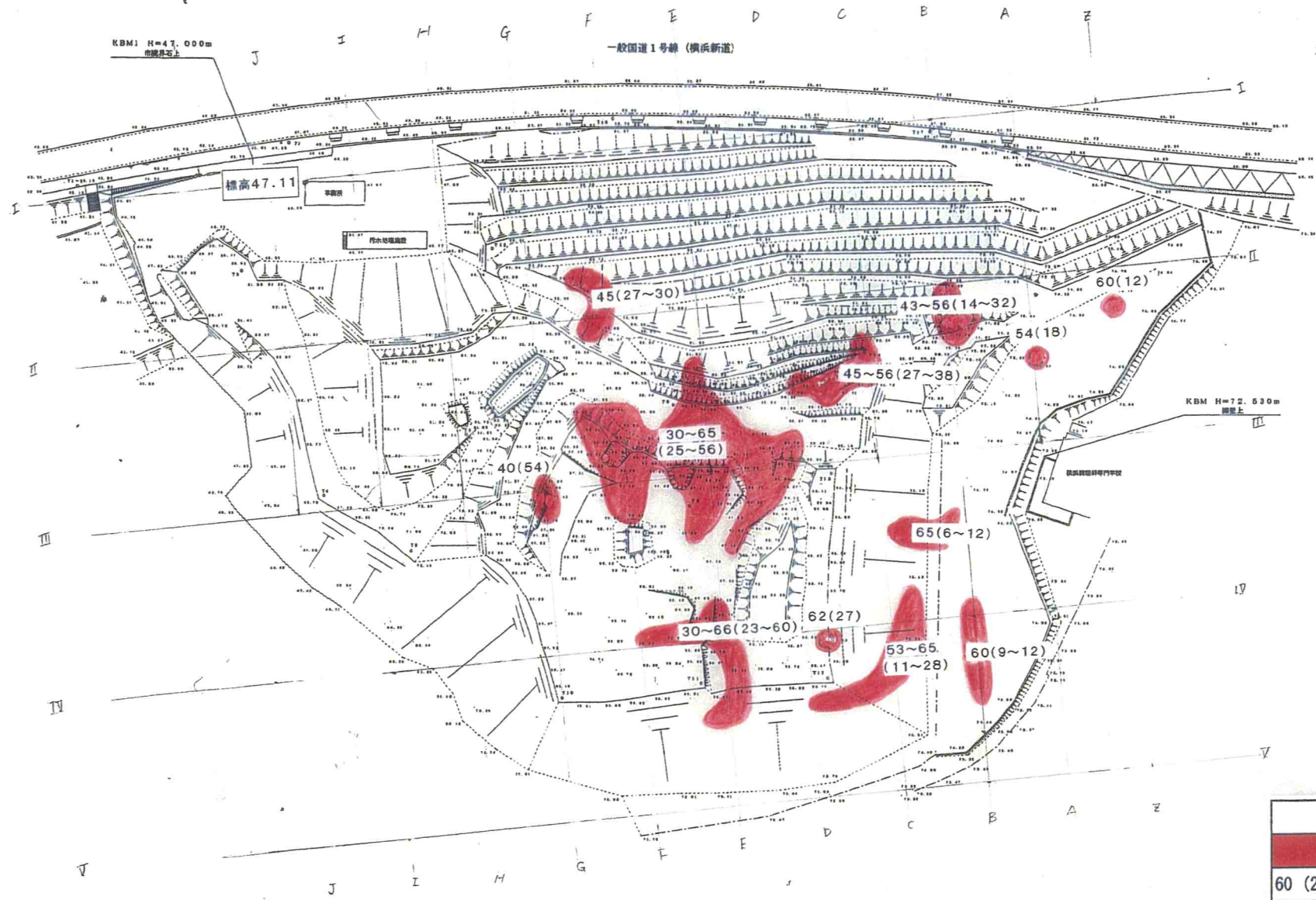
### H15.7~H18.3 週別の降雨量と水位の関係



# H18. 4～H18. 6 日別の降雨量と水位の関係



# アスベスト埋立箇所図



(単位:m)

凡 例	
<span style="background-color: red; color: black;">■</span>	アスベスト埋立箇所
60 (20)	埋立地盤高(被り推定値)

\* 底盤高 30.0m

注意) 本図で示す標高は、横浜国立大学校舎の高さを72.53mとし計算したものである。

場 所	横浜市戸塚区品濃町1622番2地先		
種 別	現況平面・高低図		
測量年月日	平成15年10月	日	第 尺 量 員 重 彦
測設年月日	平成15年10月	日	1
測設番号	1000		
計測機関	横浜市環境保全局		
作業機関	国際産業株式会社		

別添④

# JRトンネル内検査状況（集水ます等の写真・水質調査結果）

**注1)**  
調査日の H18.6.9 は激しい降雨あり。

**注2)**  
トンネル内の集水ますは 20 m 間隔で設置されている。

**注3)**  
⑥ には、トンネル内の集水管からの排水以外にも流入水がある可能性あり。



試料	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
日付	H18.6.9	H18.6.9	H18.6.9		H18.6.9	H18.6.9	H18.6.9	H18.6.9
pH	6.8	7.0	6.9		7.0	7.5	7.1	7.6
BOD	0.9	2.3	4.6	写真撮影のみで、水質調査なし	580	190	3.9	1.8
COD	2.0	4.7	22		400	200	16	7.9
フェノール類	<0.05	<0.05	<0.05		6.5	2.5	<0.05	0.06
ほう素	<0.1	1.0	3.9		39	19	<0.1	<0.1
Na <sup>+</sup>	18	78	280		2600	1000	2.1	5.0
K <sup>+</sup>	5.4	11	34		240	110	6.9	2.9
Ca <sup>2+</sup>	55	69	140		340	180	7.9	14
Mg <sup>2+</sup>	29	39	81		180	95	0.9	2.0
SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup>	85	76	9.1	20	34	2.7	13	
NO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	1.7	0.3	0.8	0.4	1.6	4.1	8.6	
HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	150	230	420	1300	740	45	45	
Cl <sup>-</sup>	17	150	520	3900	1900	2.7	3.6	

※ pH 以外は（単位：mg/l）

**注4)**  
①～③のますは、赤褐色の沈殿はあるが、水は透明であり、臭気は無かった。  
④と⑤のますは、黒色のヘドロがあり、水も黒く濁っており、処分場浸出液と同様の外観・臭気であった。また、上流の滞留水と較べて温度が高いようだった。



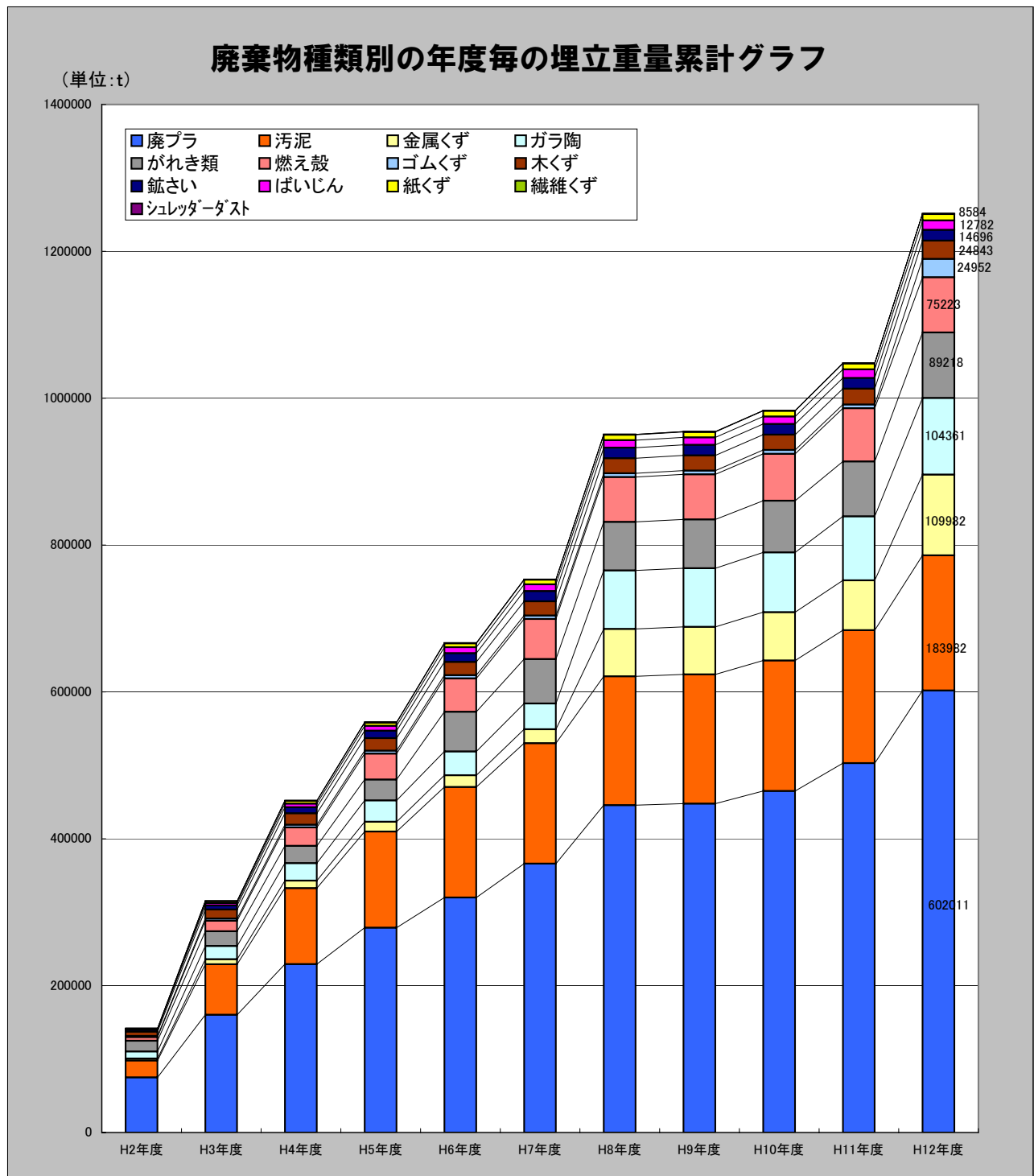
# 廃棄物種類別・年度毎の埋立重量実績

別添⑥

平成2～12年度 廃棄物種類別の埋立重量(単位:t)

種類	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	合計
廃プラ	75151	85217	69014	49630	41039	46098	79654	2093	17221	37860	99034	602011
汚泥	22836	45969	34673	27397	19593	13553	11398	532	1727	3444	2860	183982
金属くず	2702	4063	3412	3149	2664	2895	45679	156	1060	2096	42106	109982
ガラ陶	9671	8391	5829	5174	3389	2692	44546	195	1554	5745	17175	104361
がれき類	14492	5518	3371	4962	25732	6503	5566	382	3808	4312	14572	89218
燃え殻	5173	9269	10656	10241	10036	9118	6571	337	2524	8508	2790	75223
ゴムくず	1378	1582	715	450	329	332	305	17	3	39	19802	24952
木くず	5938	6404	3335	1250	1160	1193	1244	44	322	689	3264	24843
鉱さい	2644	2869	2758	1935	1724	2153	320	19	140	60	74	14696
ばいじん	559	2658	1701	1668	1433	1022	1039	76	148	1367	1111	12782
紙くず	1055	1520	1082	824	822	1047	1072	43	153	430	536	8584
繊維くず	96	112	72	43	67	24	6	4	5	6	354	789
シュレッダーダスト											8	8

※1 平成3年6月～平成8年10月の間、中間処理(焼却)の残さも埋立



<ボーリング調査方法>

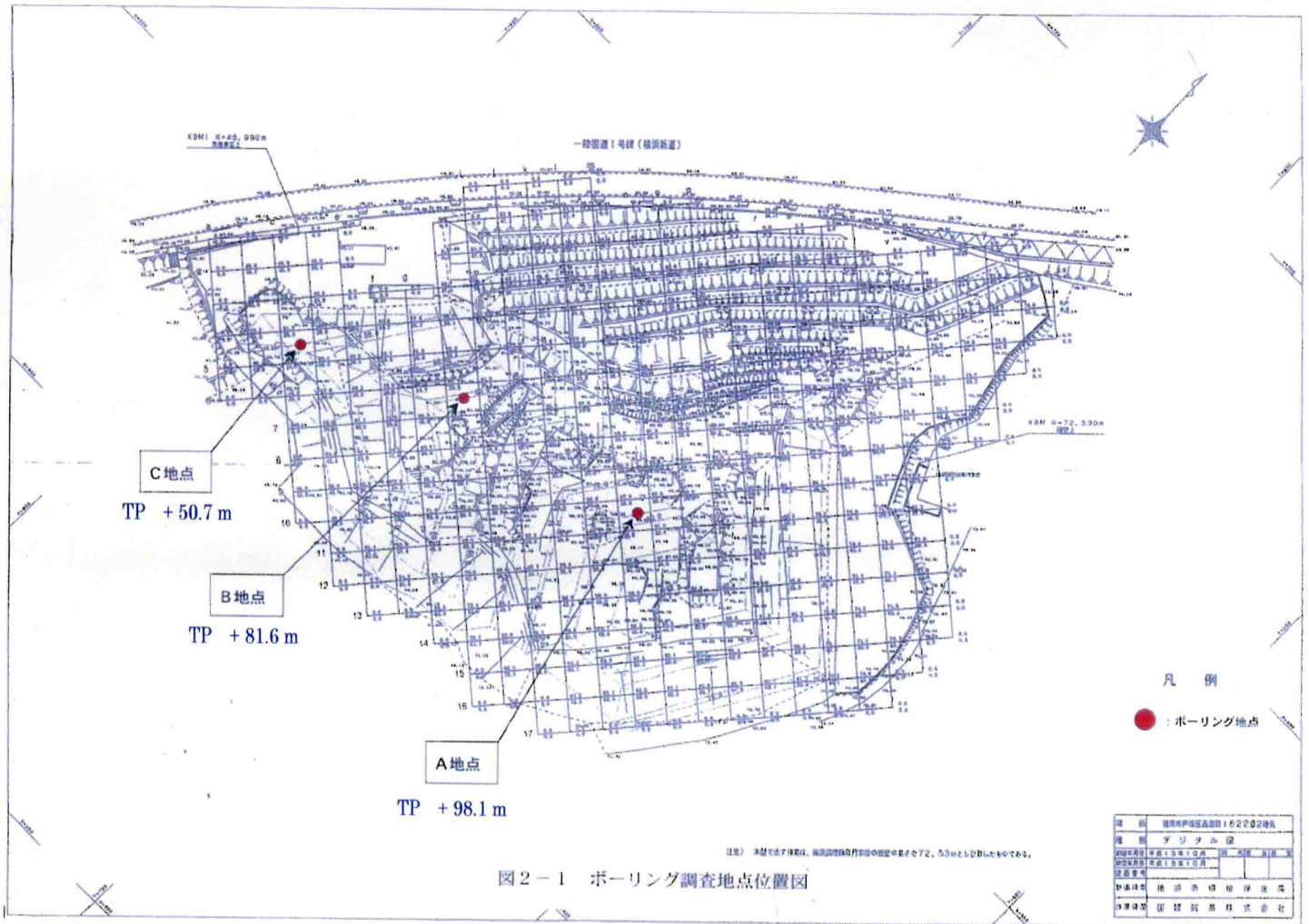
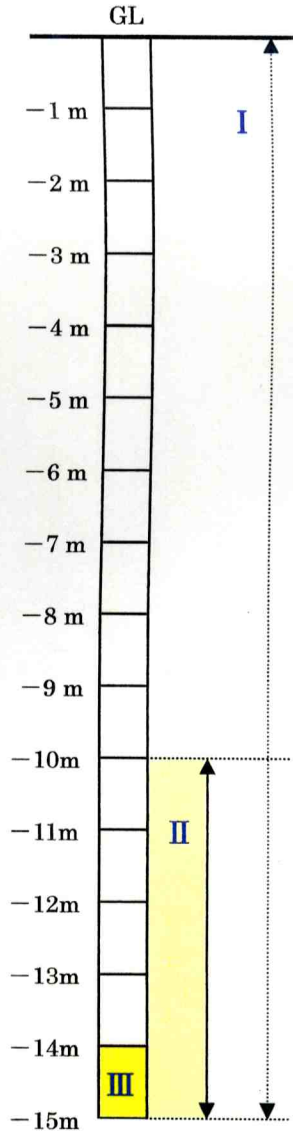


図2-1 ボーリング調査地点位置図

図名	地質調査報告書 15220204
種別	資料図
作成者	環境調査部
作成日	平成15年10月
縮尺	1:1000
備考	

**I** GL ~ -15 m  
i) コアの写真 ii) 柱状図

**II** -10 m ~ -15 m  
i) 単位体積重量 (50cm 間隔)  
ii) 廃棄物温度 (50cm 間隔)

**III** -14 m ~ -15 m  
i) 組成分類 ii) 土の粒度試験等 iii) 一般性状試験  
iv) 有害物質等の溶出試験 v) ダイオキシン類の含有量試験  
vi) アスベストの含有試験

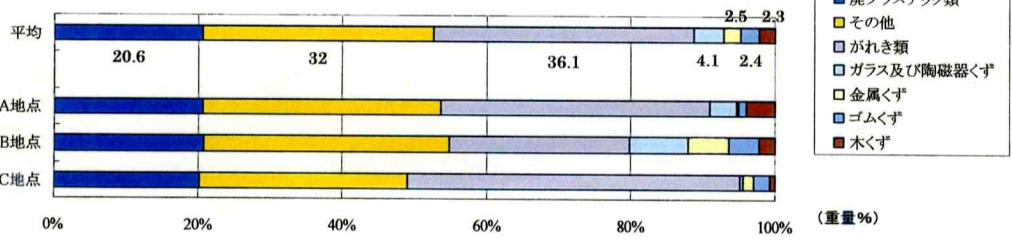
<ボーリング調査結果>

	C 地点		B 地点		A 地点	
II i) ii) 単位体積重量・廃棄物温度	(t/m <sup>3</sup> )	(°C)	(t/m <sup>3</sup> )	(°C)	(t/m <sup>3</sup> )	(°C)
-10.0 ~ -10.5 m	1.43	43.5	1.37	50.5	1.28	52.0
-10.5 ~ -11.0 m	1.25	59.0	1.04	45.0	1.31	53.9
-11.0 ~ -11.5 m	1.42	47.0	1.19	49.8	1.33	56.0
-11.5 ~ -12.0 m	1.29	57.0	1.16	60.0	1.51	49.0
-12.0 ~ -12.5 m	1.31	59.0	1.00	47.0	1.55	56.0
-12.5 ~ -13.0 m	1.49	59.0	1.09	55.0	1.68	62.0
-13.0 ~ -13.5 m	1.29	50.0	1.37	52.0	1.55	55.0
-13.5 ~ -14.0 m	1.47	57.0	1.21	57.0	1.51	60.0
-14.0 ~ -14.5 m	1.49	51.0	1.13	60.0	1.49	64.0
-14.5 ~ -15.0 m	1.73	50.0	1.08	56.0	1.52	59.0
平均	1.41	53.3	1.16	53.2	1.47	56.7

III i) 組成分類	(重量%)	(重量%)	(重量%)
廃プラスチック類	20.2	20.8	20.6
紙類	0.0	0.0	0.0
木くず	0.8	2.2	4.0
ゴムくず	2.1	4.2	1.0
金属くず	1.5	5.7	0.3
ガラス及び陶磁器くず	0.5	8.1	3.8
がれき類	46.1	24.9	37.3
その他 [粒径 5mm 以下] <※>	28.8	34.1	33.0

<※> 「その他」は、燃え殻、汚泥及びばいじん等、土と分類できないものです。また、III ii) ~ vi) の試験等は「その他」を試料としています。

廃棄物の組成分類のグラフ

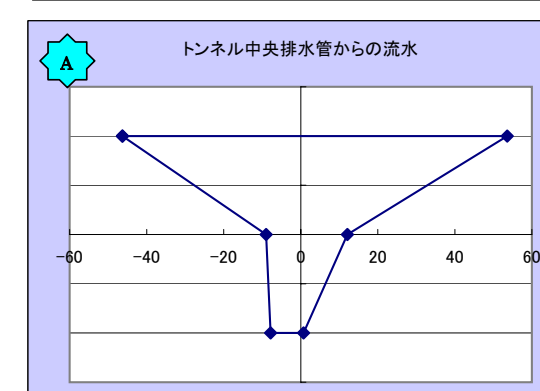
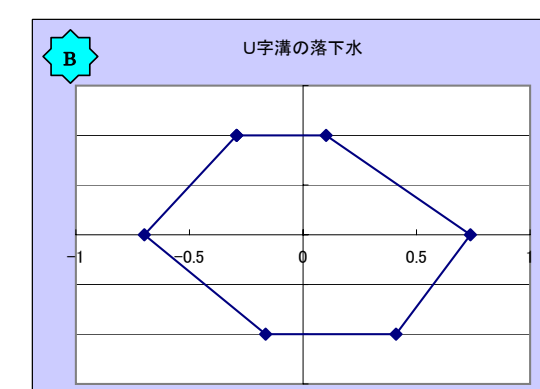
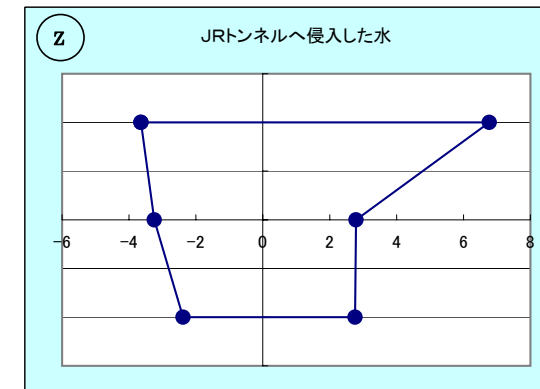
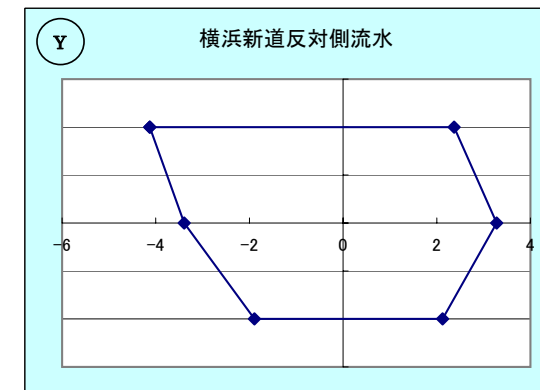
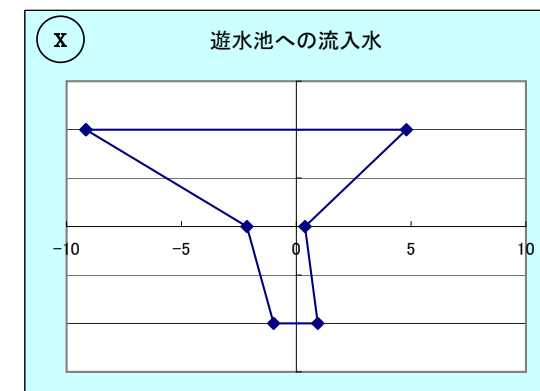
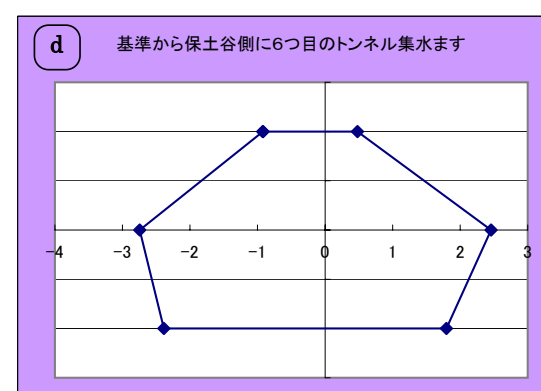
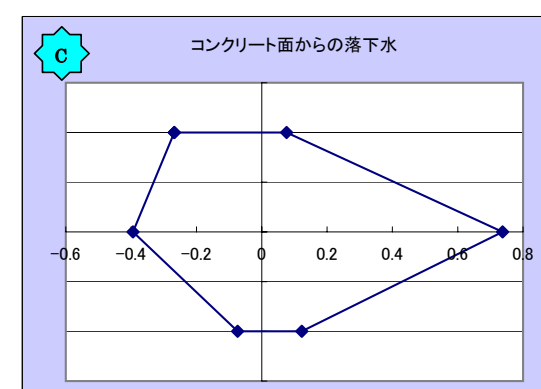
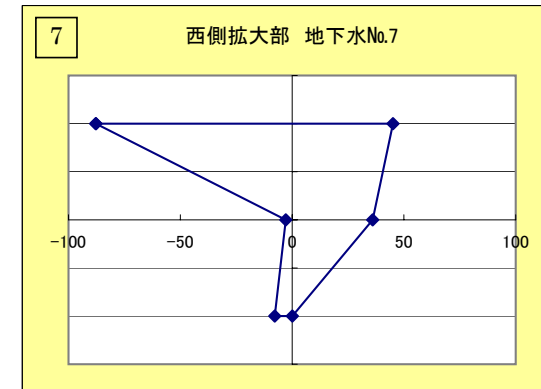
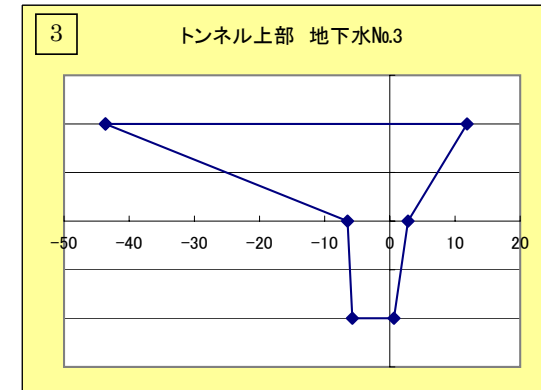
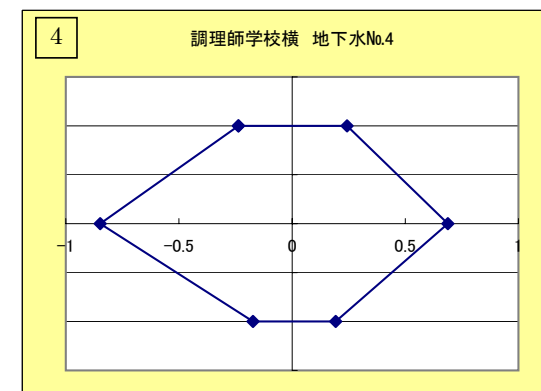
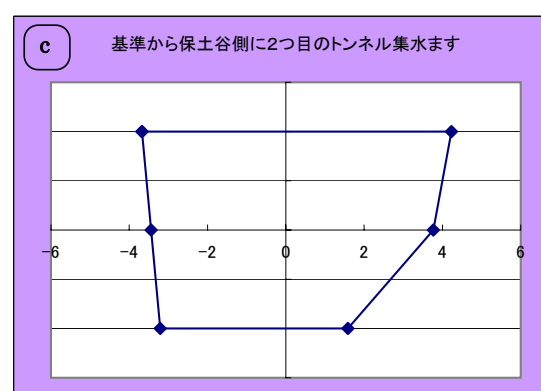
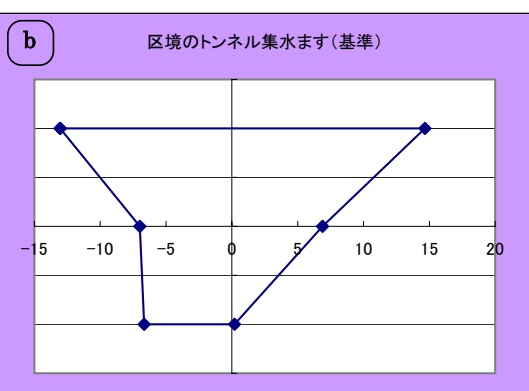
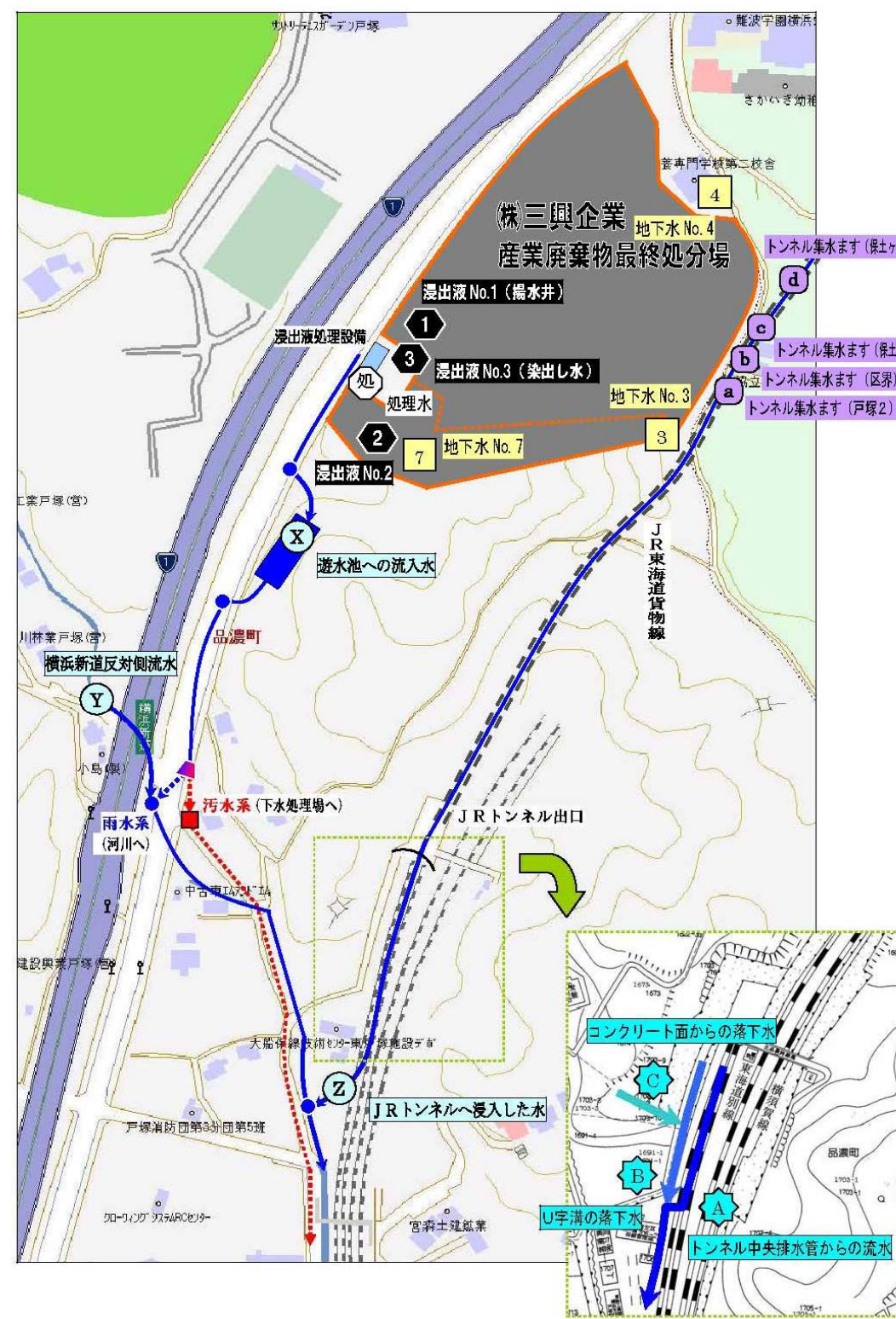
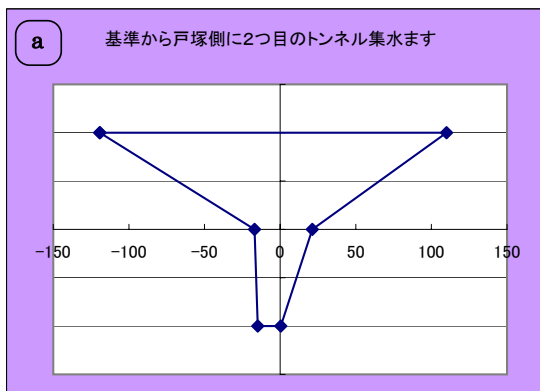
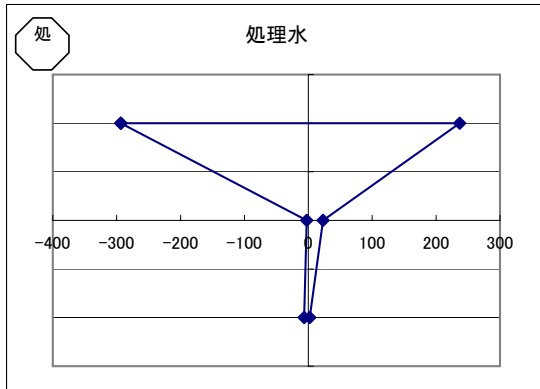
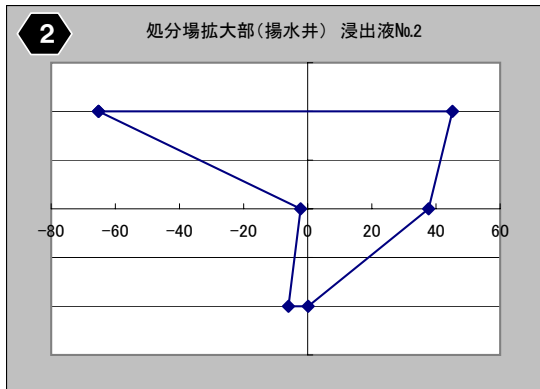
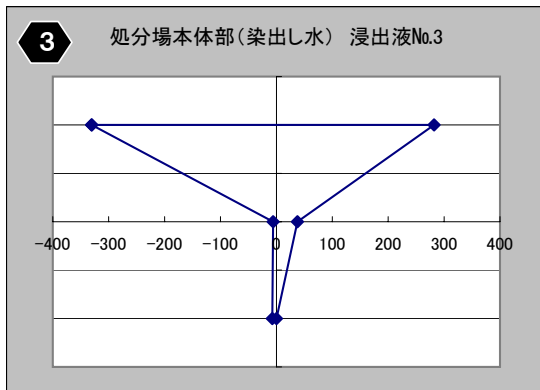
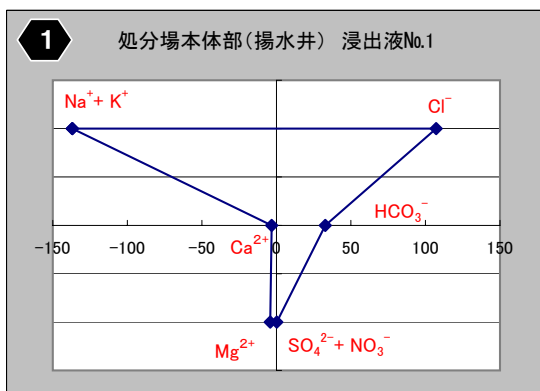


	C 地点	B 地点	A 地点
III ii) 土の粒度試験等			
土粒子の密度 (t/m <sup>3</sup> )	2.156	1.972	2.492
自然含水比 (%)	42.1	44.5	41.7
礫分 [2~75mm] (%)	14.3	10.9	9.1
砂分 [0.075~2mm] (%)	46.1	44.4	42.0
シルト分 [0.005~0.075mm] (%)	20.7	23.0	24.4
粘土分 [0.005mm 未満] (%)	18.9	21.7	24.5
最大粒径 (mm)	4.75	9.5	4.75
50%粒径 (mm)	0.250	0.15	0.087

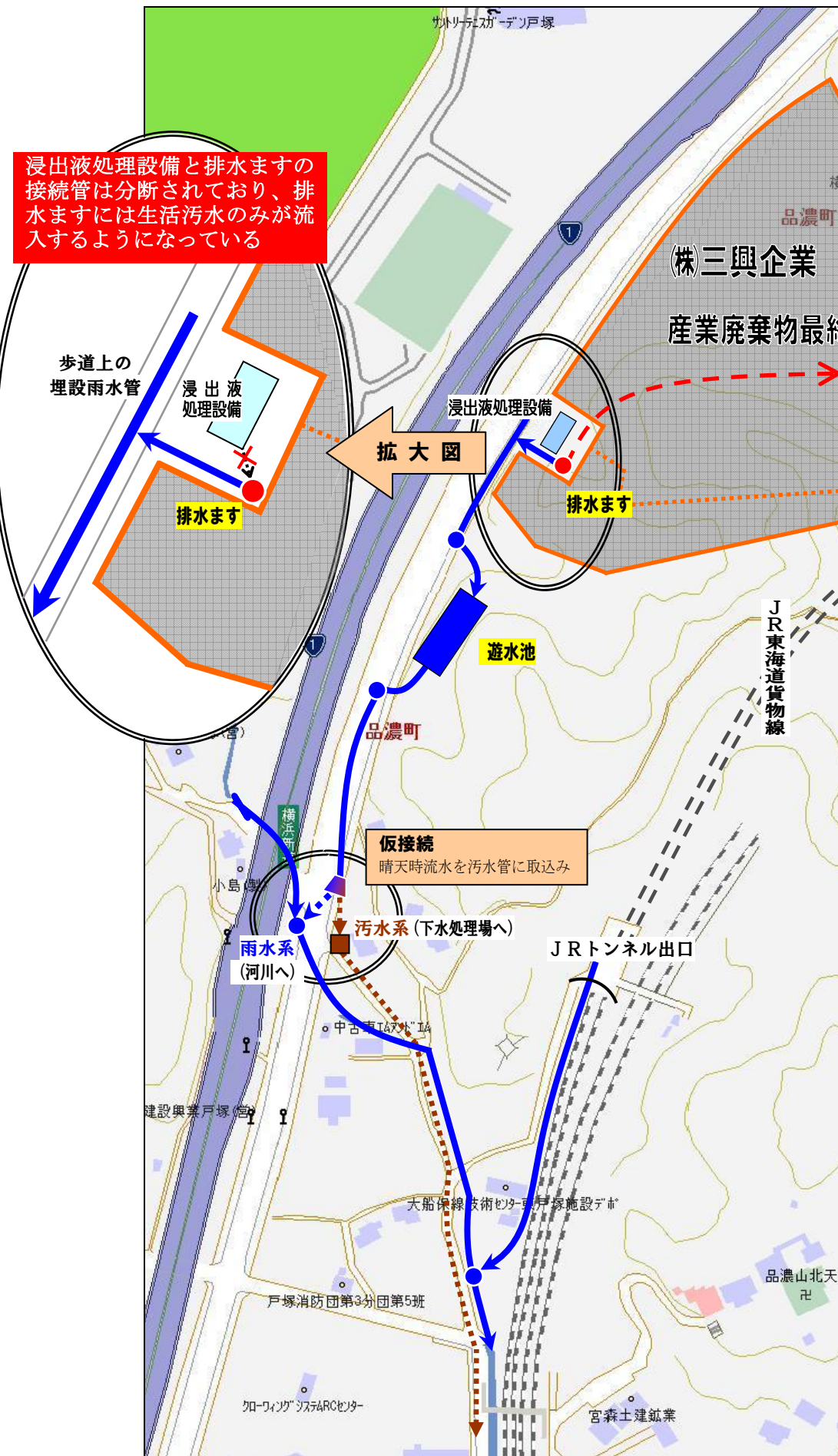
	C 地点	B 地点	A 地点
III iii) 一般性状試験			
pH	7.3 (23°C)	7.4 (23°C)	7.4 (23°C)
固形分 (%)	70.2	70.9	72.0
水分 (%)	29.8	29.1	28.0
不溶成分 (%)	69.1	69.3	70.5
熱しゃく減量 (%)	34.4	39.9	23.7
ノルマルヘキサン抽出物質含有率 (%)	1.37	2.19	0.906
III iv) 有害物質等の溶出試験	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)
アルキル水銀化合物	不検出	不検出	不検出
水銀及びアルキル水銀及びその他の水銀化合物	<0.0005	<0.0005	<0.0005
カドミウム及びその化合物	<0.01	<0.01	<0.01
鉛及びその化合物	<0.01	<0.01	<0.01
有機燐化合物	<0.1	<0.1	<0.1
六価クロム化合物	<0.05	<0.05	<0.05
砒素及びその化合物	<0.01	<0.01	<0.01
シアン化合物	<0.1	<0.1	<0.1
ポリ塩化ビフェニル	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリクロロエチレン	<0.03	<0.03	<0.03
テトラクロロエチレン	<0.01	<0.01	<0.01
ジクロロメタン	<0.02	<0.02	<0.02
四塩化炭素	<0.002	<0.002	<0.002
1,2-ジクロロエタン	<0.004	<0.004	<0.004
1,1-ジクロロエチレン	<0.02	<0.02	<0.02
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.04	<0.04	<0.04
1,1,1-トリクロロエタン	<0.3	<0.3	<0.3
1,1,2-トリクロロエタン	<0.006	<0.006	<0.006
1,3-ジクロロプロペン	<0.002	<0.002	<0.002
ベンゼン	<0.01	<0.01	<0.01
チウラム	<0.006	<0.006	<0.006
シマジン	<0.003	<0.003	<0.003
チオベンカルブ	<0.02	<0.02	<0.02
セレン及びその化合物	<0.01	<0.01	<0.01
ほう素及びその化合物	0.8	2.4	4.4
ふっ素及びその化合物	1.0	1.0	4.3
銅及びその化合物	0.06	0.12	0.08
亜鉛及びその化合物	0.43	0.29	0.33
クロム及びその化合物	<0.01	<0.01	<0.01
ニッケル及びその化合物	0.11	0.06	0.39
III v) ダイオキシン類の含有量試験	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)
ダイオキシン類	0.16	0.15	0.37
III vi) アスベストの含有試験	(%)	(%)	(%)
クリソタイル	不検出	不検出	不検出
アモサイト	不検出	不検出	不検出
クロシドライト	不検出	不検出	不検出

# ヘキサダイアグラム一覧

※ A~C・a~dは平成18年6月9日に、その他は平成18年5月24日に採取



# 処分場内の排水ますの改修工事に関する資料



## H17.4.28 排水ますの発見 (浸出液流入の痕跡)

元・担当職員からの聞き取り調査によりその場所を推定し、場内の積上げ廃棄物を人力で掘削し、排水ますを発見した。  
排水ますには、蓋の隙間から浸出液が流入している痕跡が見られた。



## H17.8.22~25 排水ますへの浸出液流入防止措置

排水ますの嵩上げ及び土のう作成により、浸出液流入防止措置を施した。また、ます内部の洗浄も実施した。



## H18.3.24 排水ますと遊水池の接続確認

遊水池上流は進入不可であるため、排水ますが遊水池に接続しているかを確認すべく、排水ますから染料を流した。  
その結果、遊水池流入水で着色が確認され、排水ますと遊水池が接続されていることを確認できた。

## 遊水池への流入水の水質変動

年月日	pH	BOD	COD	ほう素
H15.10.29	7.7	400	430	27
H16.1.15	7.4	890	440	21
H16.3.18	7	120	87	3.4
H16.7.2	7.5	160	250	19
H17.2.22	8	130	250	20
H17.4.28	排水ますの発見			
H17.5.11	7.8	15	47	7.2
H17.5.19	7.6	10	25	4.2
H17.8.22~25	排水ますの改修工事			
H18.2.24	7.4	9.5	9.3	0.9
H18.3.17	7.8	10	16	1.6
H18.4.20	6.8	20	12	0.5
H18.5.24	7.5	14	18	1.3
H18.6.28	7.2	21	25	2.0

※ pH以外の単位は (mg/l)



## 整備計画策定（技術検討）に向けての考え方

### 1 整備計画策定に関する基本方針

- ① 措置命令の範囲で、支障を除去するために必要な限度の改善工事を実施する

#### 措置命令（19条の5）

生活環境保全上支障が生じ、又は生ずるおそれがあると認められるときは、市長は必要な限度において、処分者等に対し、期限を定めて、その支障の除去等の措置を講ずべきことを命ずることができる。

#### 代執行（19条の8）

措置命令を命ぜられた処分者等が期限までに措置を講じないとき、又は講ずる見込みがないときに市長は、自ら支障の除去等の措置の全部又は一部を講ずることができる。

#### 費用徴収（19条の8）

市長は、自ら支障の除去等の措置の全部又は一部を講じたときは、当該支障の除去等の措置に要した費用について、当該処分者等に負担させることができる。

- ② 改善工事に当っては安全性と二次公害防止に最大限配慮  
 （二次公害：アスベストの飛散、可燃性ガスによる火災、悪臭、搬出入車両による交通障害等）
- ③ 整備計画案は複数作成し、評価項目に基づいて検討・評価する  
 （評価項目：費用、技術的信頼性、施工の難易、その他の長所・短所等）

### 2 廃棄物による支障と整備計画策定のための検討事項

#### 【支障1】廃棄物の飛散

（現状）

隣接する山林にビニール等が飛散している

公道への廃棄物の飛散による衛生上の問題や交通への障害の恐れがある

（検討事項）

覆土や法面防護などによる飛散防止

#### 【支障2】急勾配となっている廃棄物法面における廃棄物の崩落の危険

（現状）

廃棄物の崩落によって歩行者や近隣家屋に損傷を与えるおそれがある。

（検討事項）

- ① 擁壁・柵などの構造物による防護
- ② 廃棄物の除去や場内移動による法面角度の緩和
- ③ 工事に伴う二次公害防止

#### 【支障3、4】浸出液による地下水および公共用水域の汚染の防止

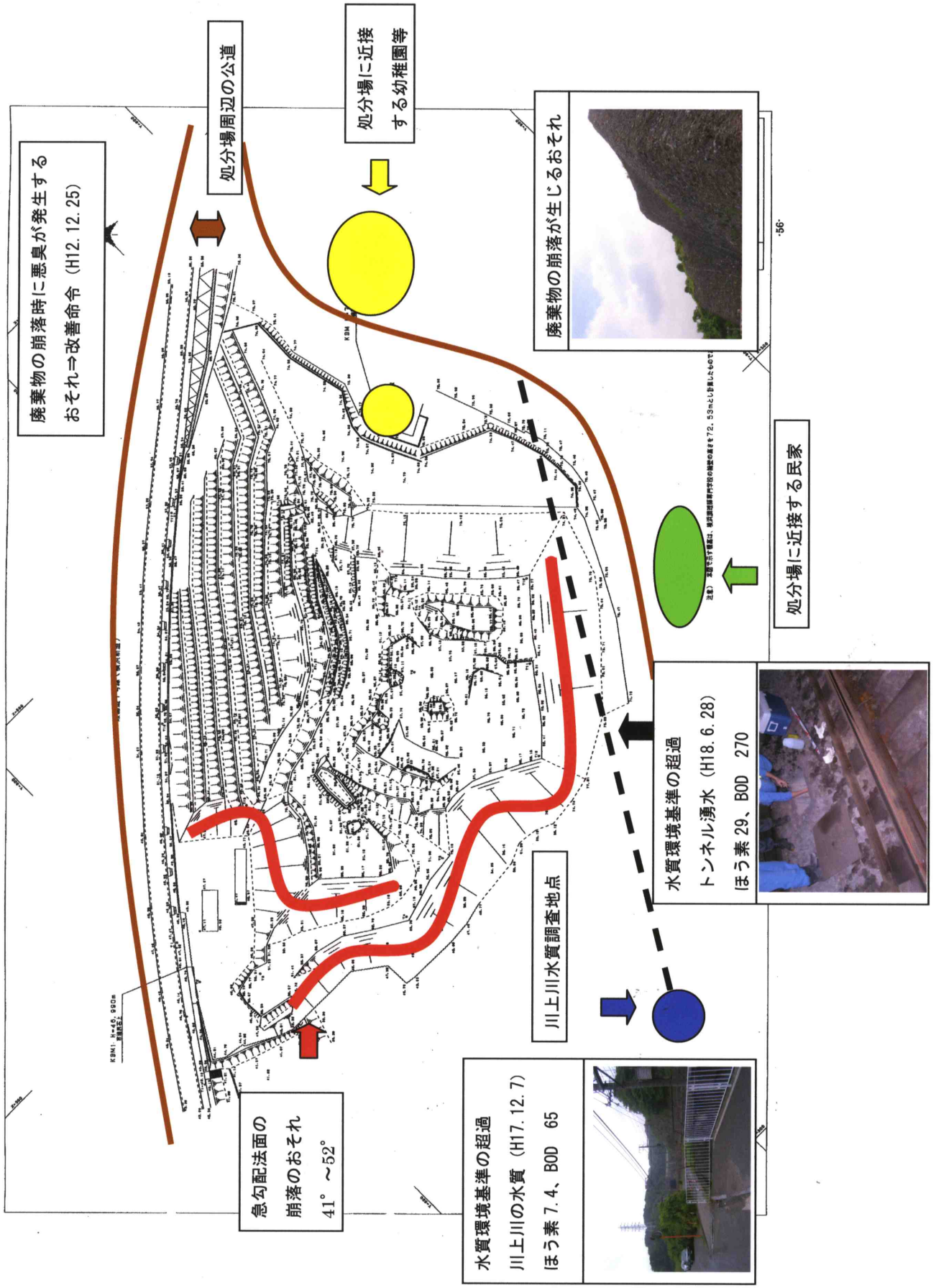
（現状）

処分場近くの水路や鉄道トンネルへの浸出水漏洩により、これらの環境水で有機汚濁や臭気が生じている

（検討事項）

- ① 浸出液の場外排出方法
- ② 覆土・遮水シートによる浸出液の発生抑制
- ③ ②の施工に必要な法面角度の緩和

# 生活環境保全上の支障



廃棄物の崩落時に悪臭が発生する  
おそれ⇒改善命令 (H12. 12. 25)

処分場周辺の公道  
処分場に近接する幼稚園等



処分場に近接する民家



川上川水質調査地点

急勾配法面の崩落のおそれ  
41° ~ 52°



## 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会の会議の公開・傍聴規程(改正案)

## (趣旨)

第1条 この規程は、戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会設置要綱（平成18年2月9日）に基づき開催する戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会（以下「委員会」という。）の会議における、公開・傍聴について必要な事項を定めるものとする。

## (会議の公開)

第2条 委員会の会議は、横浜市の保有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号。以下「情報公開条例」という。）第31条及び横浜市審議会等の公開に関する要綱（平成12年6月助役依命通達）、並びに横浜市審議会等の設置及び運営に関する要綱（平成9年11月総務局通知）の規程を準用し、原則として公開とする。ただし、情報公開条例第31条第1項但し書第2号に規程する事項（以下「非開示情報」という。）に該当する場合は、あらかじめ委員長は一部または全部の非公開とする。この場合において、委員長が必要があると認めるときは、出席委員の意見を聴くことができる。

## (資料の配布)

第3条 委員会を公開した場合は、傍聴者に会議資料を配布するものとする。この場合において、傍聴者に配布する会議資料の範囲は、委員長が定める。

## (傍聴の手続き)

第4条 傍聴しようとする者があった場合の手続きは、次のとおりとする。

- (1) 会議の傍聴を希望する者は、あらかじめ傍聴人名簿（様式1）に所定の事項を記入し、係員の指示により、傍聴席に入らなければならない。
- (2) 会議の傍聴席数は、10席程度を設けるものとする。
- (3) 会議を傍聴しようとする者の人数が傍聴席数を超える場合においては、傍聴人は会議開催時に抽選により決定する。
- (4) 会議を傍聴しようとする者は、傍聴席に入場するに当たり所持品の検査等に応じることが求められたときは、これに協力しなければならない。

## (傍聴することができない者)

第5条 次の各号の一に該当する者は、傍聴を認めないものとする。

- (1) 危険物、プラカード、ビラ、拡声器その他会場内に持ち込むことが適当でないものを所持する者
- (2) はちまき、たすきその他これに類するものを着用している者
- (3) 酒気を帯びているもの
- (4) その他会場における秩序を乱すおそれがあり、傍聴させることが適当でないと思われる者

(傍聴人が守るべき事項)

第6条 傍聴人は、静粛を旨とし、次に係る事項を守らなければならない。

- (1) 委員長の指示に従うこと。
- (2) 会場内において、発言はしないこと。
- (3) 会場における言動に対して拍手をし、又はけん騒な行為を行わないこと。
- (4) 会場において写真等を撮影し、又は会議における発言等を録音しないこと。ただし、あらかじめ委員長が許可した場合は、この限りでない。
- (5) その他会場の秩序を乱し、又は会議の進行を妨げる行為を行わないこと。

(退場措置)

第7条 傍聴人が前項の規程に違反し、委員長の指示に従わない場合は、委員長は退場を命じることができる。なお、委員長が退場を命じたときは、傍聴人は、直ちに退場しなければならない。

(委員長のとる臨機の処置)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員長は必要があると認めたときは、臨機に応じて必要な処置を執ることができる。

(会議録)

第9条 公開された会議の会議録は、委員長が確認した後確定し、確定後1年間、資源循環局適正処理部産業廃棄物対策課において市民の閲覧に供するとともに、必要な方法で公開することができる。

附則

(施行期日)

- 1 この規程は平成18年3月8日から実施する。

附則

(施行期日)

- 1 この規程は平成18年8月 日 から実施する。

## 第 1 回 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会議事録

- 日 時** 平成 18 年 3 月 8 日(水)午後 1 時 30 分から午後 4 時まで
- 開催場所** 関内中央ビル 10 階大会議室
- 出席者** (委 員)  
相澤委員、今泉委員、中杉委員、野馬委員、松藤委員、八木委員  
(オブザーバー) 林関東環境事務所課長  
(横浜市)  
資源循環局長、副局長、適正処理部長、産業廃棄物対策担当部長、技術担当部長、施設課長、総務課長、産業廃棄物対策課長、適正処理監視指導担当課長、他事務局 6 名  
計 15 名
- 開催形態** 公開 (傍聴者 11 人)
- 決定事項**
- 1 中杉委員が委員長に選出された。副委員長は猿田委員に願います。
  - 2 「戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会の会議の公開・傍聴規程」が了承された。
  - 3 平成 18 年度末を目途に支障除去の技術的検討を行う。
- 議 事**
- 1 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会設置要綱第 4 条第 1 項の規程に基づき、委員長の選出を行い、中杉委員が委員長に選出された。また、副委員長は猿田委員に願いますこととした。
  - 2 「戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会の会議の公開・傍聴規程」が了承された。委員長より本日の会議は公開をすることとなった。
  - 3 事案の概要について  
事務局から、資料 4 により事案の概要を説明した。  
(主な質疑・意見等)  
○遮水シートはどのように敷かれているのか。  
(事務局回答) その当時の最新式シートを使い、二重構造にするなど法令基準を満たしている。  
○処理水、浸出液で重金属等の心配はないか。  
(事務局回答) 重金属や有機塩素系等の有害項目については、基準値未満あるいは不検出である。  
○廃棄物斜面の角度が 46 度を超えているということで、土質力学的な検討はしたのか。  
(事務局回答) どの角度までが安全かということにはわからないが、崩落の危険性があるため、措置命令を発令した。
  - 4 今後の調査方法について  
資料 5 「今後の調査方法」、(ボーリング調査と観測井戸の設置による水質調査) を了承した。
  - 5 今後のスケジュールについて  
今年の夏以降、年度内に 5 回程度委員会を開催、支障除去の考え方をまとめる。  
来年度以降については、工事終了まで委員会を年 2 回程度開催し、事務局から状況報告を行うものとした。

## 6 その他

(応急対策について)

市が実施する応急対応について事務局が報告した。

- 処分場周辺に染み出した汚水は、現在、下水道に入れる仮接続を行っているが、今後は生活環境保全上の緊急対策として処分場内の汚水を下水道へ放流する。
- GPS測量を利用したでシステムで廃棄物の動きを監視する。

(検証委員会について)

第1回戸塚区品濃町最終処分場検証委員会の開催結果を事務局が報告した。

### 資料

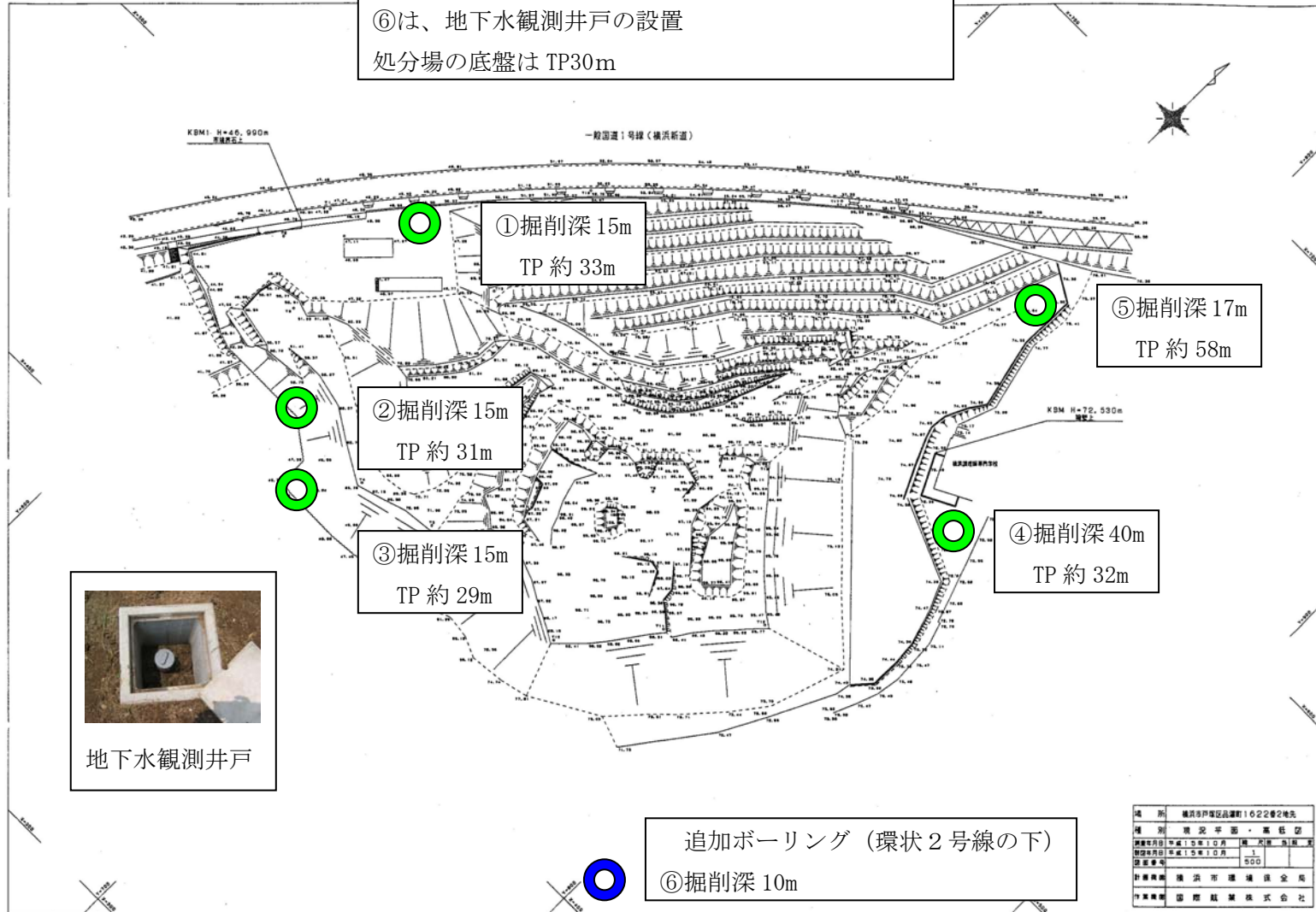
- 1 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会設置要綱
- 2 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会名簿
- 3 戸塚区品濃町最終処分場技術検討委員会の会議の公開・傍聴規程(案)
- 4 戸塚区品濃町最終処分場事案概要
- 5 今後の調査方法

### その他

3月8日午前中に戸塚区品濃町最終処分場を視察した。

ボーリング調査の内容と進捗

①～⑤は、地下水観測井戸の設置と土質調査  
 ⑥は、地下水観測井戸の設置  
 処分場の底盤はTP30m



資料5

# 第1回委員会以降の水質測定結果

※ pH及びダイオキシン類以外の基準の単位は(mg/l以下)  
 ※ ダイオキシン類の基準の単位は(pg-TEQ/l以下)  
 ※ pH及びダイオキシン類以外の基準の単位は(mg/l)  
 ※ ダイオキシン類の単位は(pg-TEQ/l)  
 ※ 「0」は定量下限値未満

河川放流水基準	試料名	処理水						浸出液No. 1 (揚水井)						浸出液No. 2						浸出液No. 3 (染出し水)						浸出液No. 4 (中心部からの配管)				
		H18.1.16	H18.1.27	H18.3.17	H18.4.20	H18.5.24	H18.6.28	H18.1.16	H18.1.27	H18.2.24	H18.3.17	H18.4.20	H18.5.24	H18.6.28	H18.1.16	H18.3.17	H18.5.24	H18.6.28	H18.1.16	H18.3.17	H18.5.24	H18.6.28	H18.1.27	H18.2.24	H18.3.17	H18.4.20	H18.5.24	H18.6.28	H18.6.28	H18.6.28
5.8~8.6	pH	8.1	8.3	8.4	8.4	8.3	7.9	7.6	7.8	7.6	7.7	7.7	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.7	7.8	7.7	7.7	7.8	7.7	7.7	7.5		
60	COD	790	690	710	410	290			1100	1800	1200	1300	1200	870	400	290	190	420	380	210	1600	940	920	1000	1300	1000	1700			
90	BOD	190	16			9.1	6.1		290	210	340	220	230	180	100	78	48	32	290	67	250	230	420	290	270	3500				
90	SS	7	13					4	20		9			8				19			69									
検出されないこと	アルキル水銀	0																												
0.005	総水銀	0																												
0.1	カドミウム	0																												
0.01	鉛	0																												
0.05	六価クロム	0																												
0.01	ヒ素	0							0.01		0.01																			
1	シアノ	0																												
0.2	有機りん	0																												
0.003	PCB	0																												
0.3	トリクロロエチレン	0																												
0.1	テトラクロロエチレン	0																												
0.2	ジクロロメタン	0																												
0.02	四塩化炭素	0																												
0.04	1,2-ジクロロエタン	0																												
0.2	1,1-ジクロロエレン	0																												
0.4	1,2-ジクロロプロパン	0																												
3	1,1,1-トリクロロエタン	0																												
0.06	1,1,2-トリクロロエタン	0																												
0.02	1,3-ジクロロプロパン	0																												
0.006	チラム	0																												
0.003	シマジン	0																												
0.2	オキサリカルブ	0																												
0.1	ベンゼン	0																												
0.1	セレン	0	0.04																0.01			0								
10	ダイオキシン類	0.066						1.4							0.091							0.04								
1	ニッケル	0							0.1		0																			
2	鉛	0																												
10	溶解性鉄	0	1.3																			0.2					2.1			
1	溶解性マンガン	0																									0			
3	銅	0	0.2																								0			
3	亜鉛	0																									0			
8	ふっ素	6						5.3		4.8								5.2				6.1								
0.5	フェノール類	0.06	0	0	0.06	0		2.2	1.3	2.2	2.9	3	2.9		0.56	0.29	0.36	0.36	0.4	0.33	5.1	1.1	1.4	1.2	1.1	2.5	6.2			
10	硝酸・亜硝酸性窒素	150						1.6																			0			
10	アンモニア性窒素	160						230		240												330					0			
100	ぼう素	84	47	77	78	89		82	60	58	100	54	62		29	24	21	31	32	31	90	82	70	150	83	110	140			
5	ルルヘキサン抽出物質	0						2		2												4					0			
—	Cl <sup>-</sup>	10000	9300	8400	8400	7600		5800	5600	5700				3800	3100			2500	1600	1000	2900	2900	1700	12000	10000	8000	9100	10000	9000	12000
—	Na <sup>+</sup>					6400								3000					1400								7200			
—	K <sup>+</sup>					590								250					170								680			
—	Ca <sup>2+</sup>					49								64					44								120			
—	Mg <sup>2+</sup>					79								50					73								88			
—	HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>					1400								2000					2300								2300			
—	SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup>					100								13					4.5								13			
—	NO <sub>3</sub> <sup>-</sup>					15								0.4					1								0			

地下水環境基準	試料名	地下水No. 3						地下水No. 4				地下水No. 7							
		H18.1.16	H18.1.27	H18.2.24	H18.3.17	H18.4.20	H18.5.24	H18.6.28	H18.3.17	H18.4.20	H18.5.24	H18.6.28	H18.1.16	H18.1.27	H18.2.24	H18.3.17	H18.4.20	H18.5.24	H18.6.28
—	pH	6.4	6.9	6.7	6.7	6.8	6.7	7.1	7.1	7.2	7.2	7.5	7.2	7.2	7.3	7.3	7.2		
—	COD	10	8.3	9.7	6.5	8.7	8	14	14	6.2		300	280	330	240	280	250		
—	BOD	0.8	1.7	1.2	2.4	2.2	2.2	14	7.2	5.6		54	63	54	120	47	36		
—	SS	73									27								
検出されないこと	アルキル水銀	0										0							
0.0005	総水銀	0																	
0.01	カドミウム	0																	
0.01	鉛	0																	
0.05	六価クロム	0																	
0.01	ヒ素	0																	
検出されないこと	シアノ	0																	
0.2	有機りん	0																	
検出されないこと	PCB	0																	
0.03	トリクロロエチレン	0																	
0.01	テトラクロロエチレン	0																	
0.02	ジクロロメタン	0							0.037										
0.002	四塩化炭素	0																	
0.004	1,2-ジクロロエタン	0																	
0.02	1,1-ジクロロエレン	0																	
0.4	1,2-ジクロロプロパン	0																	
1	1,1,1-トリクロロエタン	0																	
0.006	1,1,2-トリクロロエタン	0																	



## 戸塚区品濃町最終処分場検証委員会の概要

## 1 目的

(株)三興企業が横浜市戸塚区品濃町に設置した最終処分場で行われた不適正処理に関して、これまで本市が講じた措置等について検証を行い、再発防止策を検討する。

## 2 委員

	氏名	所属等	専門分野
委員長	おがのしょういち 小賀野 晶一	千葉大学大学院教授	法律
	さくもと なおゆき 作本 直行	独立行政法人日本貿易振興機構 アジア経済研究所	国際環境
	たかい かえこ 高井 佳江子	弁護士	法律
	たなか みつる 田中 充	法政大学教授	環境行政学
	とくえ よしのり 徳江 義典	横浜国立大学法科大学院教授 弁護士	法律

## 3 開催の状況

	日時	議事	決定事項
第1回	平成18年1月20日	・事案の概要について ・今後のスケジュールについて	・委員長に小賀野委員を選出 ・会議の公開・傍聴規程の了承 ・平成18年秋頃を目途に検証結果と再発防止策をまとめる。
第2回	平成18年3月24日	・事案の検証(埋立状況と経緯)	・検証期間を平成7年5月から現在までとし、それを4期間に分けて検証を進める。
第3回	平成18年5月12日	・第Ⅰ期及び第Ⅱ期(平成7年5月から平成11年9月までの期間)の検証	・確認調査を実施する。 指示書の発行(平成7年5月～) 措置命令(平成9年2月24日、12月25日) 施設変更許可(平成9年12月25日) 処理業再許可(平成10年6月29日) ・会議の公開・傍聴規程の改正(傍聴人の抽選規程の追加)
第4回	平成18年6月22日	・第Ⅲ期及び第Ⅳ期(平成11年9月から現在までの期間)の検証	・確認調査を実施する。 指示書の発行(平成11年9月～) ・資料の調査を実施する。 平成8年から13年の現場航空写真 施設変更許可の許可基準と事案の状況 処理業再許可の許可基準と事案の状況
第5回	平成18年7月21日	・事案の検証(第4回検証委員会における確認調査結果及び全検証期間)	
第6回	平成18年8月	—	

## 4 その他

平成18年11月を目途に、検証についての報告書を取りまとめる予定